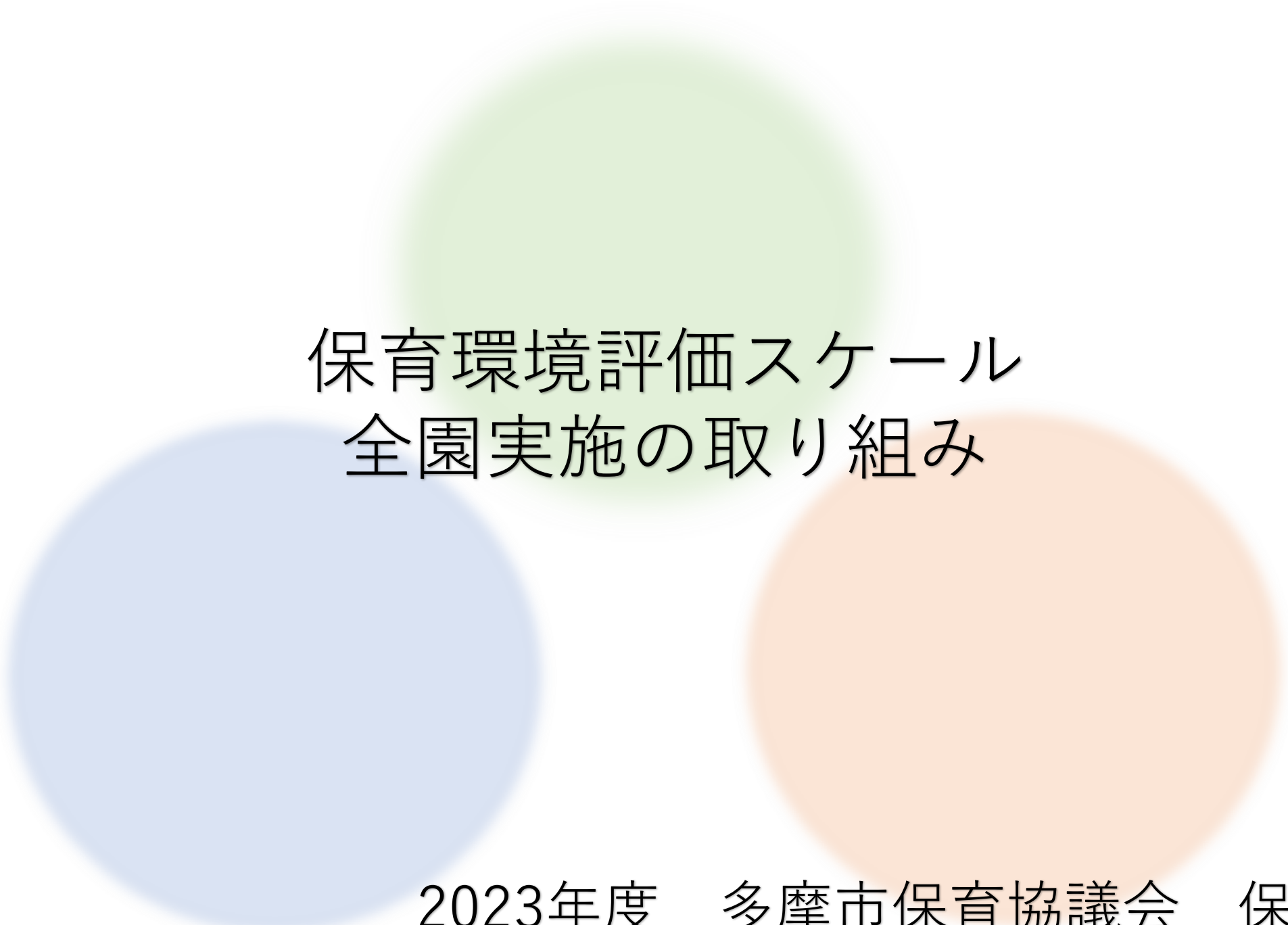




保育環境評価スケール 全園実施の取り組み

2023年度 多摩市保育協議会 保育士会

保育環境評価スケールとは？

- アメリカで開発された保育の質を測る尺度で、現在世界20か国以上で調査研究や自己評価に用いられています。多摩市保育協議会では、このスケールの翻訳者でもある埋橋玲子氏（現大阪総合保育大学 児童保育学部教授）と共に研修を重ねてきました。
- 保育室の環境構成・食事や保健衛生や安全・子どもと保育者のやりとりなど35の項目におよび客観的な指標に基づき保育の振り返りや検討を行います。
- 客観的視点に基づいて「なぜそのような保育なのか」を保育者が話し合うことは、「保育者と子どもの関わり」と「関わりを通して育まれる子どもの学びに向かう力」を保障し、自分達の保育をみつめ、保育の質の向上につながっています。

保育環境評価スケール乳児版

サブスケール	項目
1. 空間と家具	1. 室内空間 2. 養護・遊び・学びのための空間 3. 室内構成 4. 子どもに関する展示
2. 養護	5. 食事／間食 6. オムツ交換／排泄 7. 保健衛生 8. 安全
3. 言葉と絵本	9. 子どもと話す 10. 語彙の拡大 11. 子どもからのコミュニケーションへの応答 12. 子どもからのコミュニケーションの促進 12. 保育者による絵本の使用 13. 絵本に親しむ環境
4. 活動	15. 微細運動（手や指を使う） 16. 造形 17. 音楽リズム

サブスケール	項目
	18. 積み木 19. ごっこ（見立て・ふり・つもり）遊び 20. 自然 21. 数・量・形など 22. ICTの活用 23. 多様性の受容 24. 粗大運動（身体を大きく動かす）遊び
5. 相互関係	25. 粗大運動遊びの見守り 26. 見守り（粗大運動以外） 27. 子どもどうしのやりとり 28. 保育者と子どものやりとり 29. あたたかな身体的関わり 30. 望ましいふるまいの導き
6. 保育の構造	31. 日課と自由時間 32. 自由遊び 33. 集団での遊び

保育環境評価スケール幼児版

サブスケール	項目
1. 空間と家具	1. 室内空間 2. 養護・遊び・学びのための空間 3. 遊びと学びのための室内構成 4. ひとりまたはふたりのための空間 5. 子どもに関する展示 6. 粗大運動遊びの空間 7. 粗大運動遊びの設備・用具
2. 養護	8. 食事／間食 9. 排泄 10. 保健衛生 11. 安全
3. 言葉と絵本	12. 語彙の拡大 13. 話し言葉の促進 14. 保育者による絵本の使用 15. 絵本に親しむ環境 16. 印刷（書かれた）文字に親しむ環境
4. 活動	17. 微細運動（手や指を使う） 18. 造形 19. 音楽リズム

サブスケール	項目
	20. 積み木 21. ごっこ（見立て・ふり・つもり）遊び 22. 自然／科学 23. 遊びのなかの算数 24. 日常生活の中の算数 25. 数字の経験 26. 多様性の受容 27. ICTの活用
5. 相互関係	28. 粗大運動の見守り 29. 個別的な指導と学び 30. 保育者と子どものやりとり 31. 子どもどうしのやりとり 32. 望ましい態度・習慣の育成
6. 保育の構造	33. 移行時間と待ち時間 34. 自由遊び 35. 遊びと学びのクラス集団活動



2023年度の取り組み

小規模保育園をのぞく市内認可保育園全園で実施

- ・各園にて年間2回を実施
- ・1回目と2回目の間に経過を持ち寄り振り返りと2回目に向けての情報交換を行う
- ・2回目終了後、変化等を含めた振り返りを実施

全体のまとめ、保育の質の向上がわかる報告方法、
次年度以降についての話し合いを実施

実施期間 2023年6月～2024年2月

第1回目の評価 2023年7月～10月
第1回目の振り返り 2023年11月

第2回目の評価 2023年11月～12月
第2回目の振り返り 2024年1月

まとめ 2024年2月

ワーキンググループ

グループ①	桜ヶ丘第一保育園・多摩保育園・ピオニイ第二保育園 みさと保育所・やまと保育園
グループ②	あおぞら保育園・あすのき保育園・おだ認定こども園 こぐま保育園・関戸みどりの保育園
グループ③	かおり保育園・こばと第一保育園・バオバブ保育園 ゆりのき保育園
グループ④	あおぞらぱれっと保育園・かしのき保育園 のびのびっこ保育園・やまとさくら保育園
グループ⑤	おだ学園保育園・こころ保育園・バオバブ小さな家保育園 みどりの保育園・りすのき保育園



保育協議会 保育士会
振り返り

保育についての話し合いに関すること

- ・スケールの内容の読み合わせを行い、理解しながら評価を行ったことで深く学ぶことができた
- ・良いことを伝えあうことで、自信につながった また、見て評価することで学びになる
- ・保育士個人の経験値や主観にとらわれず、客観的にとらえ、共有することができるようになってきた
- ・評価を知ることで、担任間の共通認識につながった
- ・改善に向けて、具体的に話し合うことができるので、改善のスピードがあがる
- ・見てもらうことで、自身では気づきにくいことの改善点がわかる

保育の変化について

- ・客観的評価行うことで、様々な面での見直しができた
- ・職員間でスケールの取り組みが少しずつ定着したことで、日常の保育の中でスケールを意識した行動が多くなった
- ・子どもへの声掛け、うた。手遊び、わらべうたなど変化が顕著にでてきた
- ・他の保育者の動き、声の大きさ、子どもへの働きかけをみることで、観察した職員が学び、改善につながった
- ・年に2回実施したことで、遊具の使い方など変化が実感できた

職員のモチベーションアップ

- ・利用者も「よい取り組み」と認めてくれた
- ・経験の浅い職員でも「よいところ」を評価してもらえるので、モチベーションがあがる
- ・より具体的に改善がはっきりする（保育者と子どもの関わりの変化）ので、子どもたちの変化が自分自身にもわかるので自信につながる

Problem 改善すべき問題点

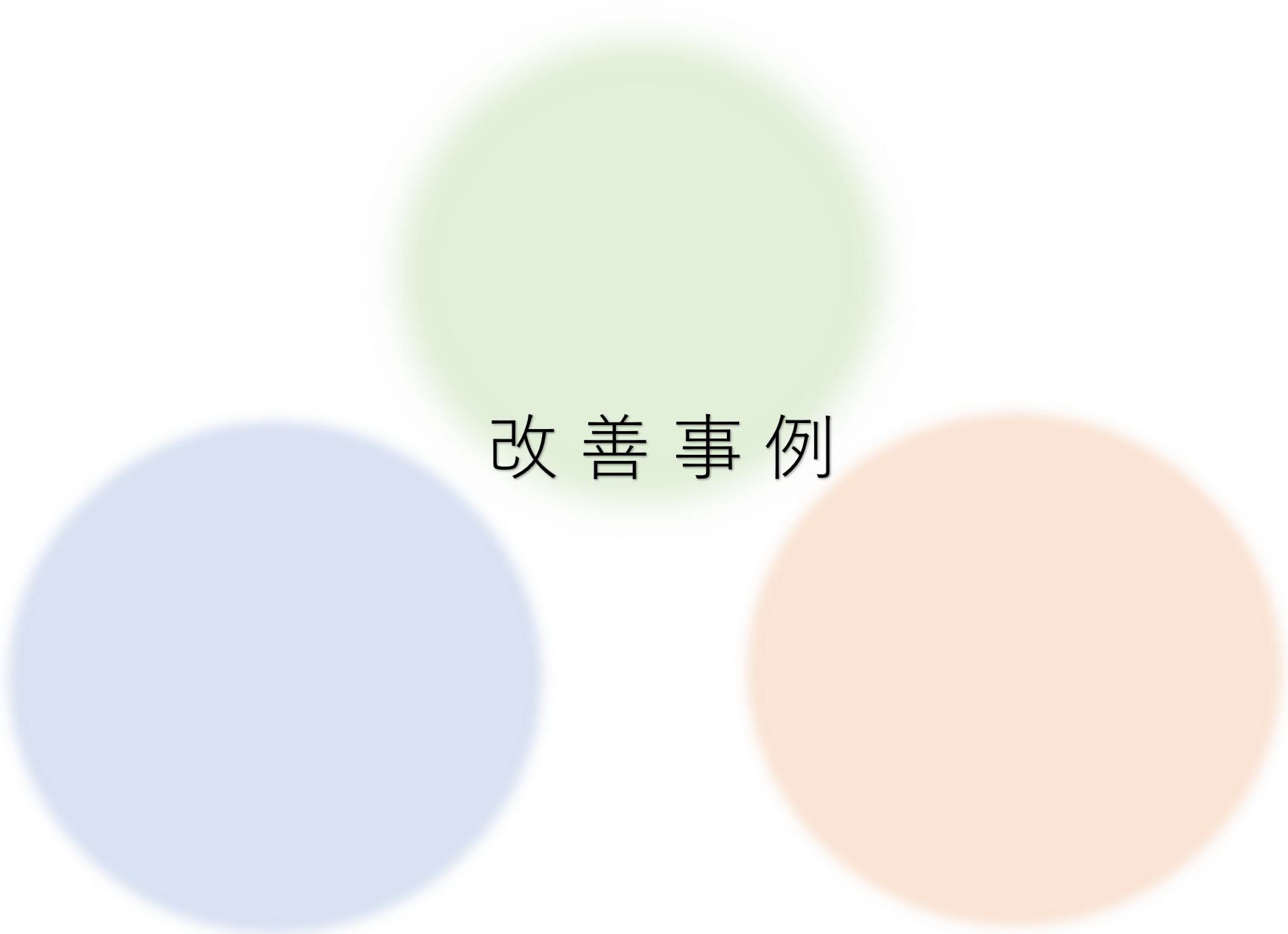
回数を重ねていくための課題

- ・内容のより深い理解、理解していかないと伝え方も難しい
 - テキストを読み込むと同時に、話し合いを繰り返しながら理解を深めていく
 - 自分達に必要な（欠けている）項目を取り出して話し合い、理解を深めていく
- ・小規模園での評価の時の人員配置
 - 法人内の別の園から評価者として加わる
 - 法人内にとらわれず他の園より評価に参加してもらう（交流兼学び）

園としてどう取り組んでいくか？（園全体の意識）

- ・年2回の評価をしながらも、日常的にスケールを意識した話し合いをもっていきたい
- ・観察する側、される側の両方とも多くの職員が経験したほうがよい
- ・改善したいポイントはハード面であるときの難しさ

- ・ 経験年数に関係なく、より多くの職員が観察者（評価者）になり、意見を聞きたい
→ よりよい保育を目指しての話し合いの実施
- ・ 実施回数を増やすことで様々なキャリアの職員が観察者（評価者）を行うだけでなく、経験の浅い職員も観察者になる→観察にも学びがり、具体的な意見交換をしっかりとしていきたい
- ・ 多様性についての理解を深めていきたい
- ・ 「スケール」を利用しながら、より子どもたちの言葉をキャッチし、発達の援助につなげていきたい
- ・ 保育の中で悩んでいること（気になっていること）を具体的に改善するきっかけとしたい
- ・ 評価の方法を工夫していきたい
→ 法人内で評価者の交換を行う
他園の評価に参加してみたい、他園の職員にも評価に参加してほしい
- ・ 職員の育成に利用したい



改善事例

乳児版 サブスケール 1 活動 項目 3 室内構成

改善のポイント

- ・遊びのコーナーを複数作ることによって、子どもが自分で好きな遊びを選びじっくり遊び込めるようになった。また、コーナー遊びをすることで少人数になり、一人ひとりの子どもの声が良く届き子ども同士や職員との言葉が広がるようになった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・評価者になることで自分のクラスの保育や自分の保育について振り返ることが出来た。
- ・スケールの本を読みこみ評価時にアドバイスをもらうことで、クラス全員が課題や改善点を共有することができ、職員同士での話し合いや相談がやりやすくなった。



乳児版サブスケール 1 空間と家具 項目 2 養護・遊び・学びのための家具



改善のポイント

部屋の角のスペースを利用し、子どもがくつろげるコーナーを作った。クッションやぬいぐるみを置き、ゆったり寝転べるようにした。天井には柔らかい布を下げ、高さを低くすることでの安心感と風に揺れる布を下から眺めることで気持ちもリラックスできるようにした。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・「現在」「少し先」の子どもの発達や興味を担任間で話し、それに沿った良い環境を考え、近づけるための時間をもてた。
- ・成長、発達のつながりも考えながら職員間で意見をだしあえる場ができた。
- ・日々の保育（自分自身）の振り返りになった。

乳児版サブスケール 1 空間と家具 項目 2 養護・遊び・学びのための空間



改善のポイント

- ・これまでの図書コーナーにはクッションが2つ置かれていた。5-3「あちこちに柔らかさがある」という項目からくつろぎの空間をどこにするか話し合い図書コーナーのクッションを4つに増やした。
- ・子ども同士の会話や絵本を楽しむ姿が増え、くつろぎの空間として活かせるようになった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・環境評価スケールをもとに保育観察をすることで自分の保育を見直すきっかけとなった。
- ・観察時だけでなく日頃から環境評価スケールを活用し振り返りができるとより良い保育ができると感じた。
- ・スケールをもとに空間の設定をすることでくつろぎの空間ができ、子ども同士の会話を楽しむ姿が増え、環境設定の大切さを実感した。

乳児版 サブスケール 1 空間と家具 項目 2 養護・遊び・学びのための家具

乳児版 サブスケール 1 空間と家具 項目3 遊びと学びのための室内構成

幼児版 サブスケール4 活動 項目22 自然/科学



改善のポイント

- ①休息のスペースを棚で仕切り、空間を確保した。
- ②自然物として、観葉植物を置き、観察したり触れ合えるようにした。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気付き



空間を仕切ることで、子どもが一休みを安心してできるようになり、次の活動の時に集中して取り組める姿が見られるようになった。観葉植物に触れる中で枯れたことの変化に気が付いたり、言葉が増えたりと新しい発見があった。

乳児版サブスケール 1 空間と家具 項目4 子どもに関する展示

改善のポイント

色々な食べ物が描かれているメニュー表を、おままごとコーナーに掲示。コーナーの仕切り部分に置いたことでその場所が注文カウンターになり、店員とお客さんという役割も生まれ、何にしますか？と注文を取る姿も出てきた。また、料理に入っている具材、味、作り方についてなど会話や発想が広がるよう、保育者も一緒に話題にしている。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 評価する側が皆初めてだったので時間がかかったが、項目を見ていく中で自分の保育の中でも取り入れたい部分が見つかった。
- ・ 普段はあまり他クラスを客観的に見る機会がないので、評価をきっかけに現状を見た上でのアドバイスが出来たり、評価者と担任と一緒に保育室の環境や保育について考えることが出来たりした。



乳児版サブスケール 1 空間と家具 項目4 子どもに関する展示



【改善のポイント】

- ・ ドングリなどの木の実に触れられる時期には室内にいろいろな種類のドングリを掲示し子ども達との会話につなげている。
- ・ 子どもの作品は立体的なものも取り入れ意識的に話しかけるようにしている。



【スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき】

- ・ 物の大小や色についてなど保育者が意識して子どもに対して言葉を使うことで子どもの理解や語彙力にもつながっているという気づきがあった。

乳児版 サブスケール 1 空間と家具 項目 4 子どもに関する展示

改善のポイント

保育士と一緒に水をあげる等の世話をしながら、野菜の栽培を楽しんだ。野菜の生長の様子を撮影し、展示した。活動の写真の他に、子どもの写真の展示も行い、保育者が展示物からいろいろと話を広げて子どもに話しかけている。



スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・客観的な視点で保育環境を見たり、色々な意見を出し合って工夫できるようになった。
- ・振り返り会議での意見をもとに、クラスで話し合い担任がチームとなって保育を行う態勢ができた。
- ・職員同士で保育についての話や相談がしやすくなった。

サブスケール 1 空間と家具 活動 5 子どもに関係する展示

改善のポイント

- ・4歳児クラス。毎日の活動を撮った活動ファイルを子どもと共有した。左のような行事や散歩などの活動写真をファイルにし、絵本コーナーに常設。子どもたちが自由に閲覧。その過程で、その日の散歩先の見通しを持てたり、「また行きたいね」など子ども同士で活動を振り返る姿も見られた。特に発達に配慮が必要な子も視覚的に楽しく見ることができて良かった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・他クラスの職員とも、客観的な視点で意見交換をしやすくなった。
- ・配慮の必要なこどもに対しても、分かりやすく見通しを持てる環境設定を意識できるようになった
- ・保護者と同様の活動写真を子どもたちとも共有できたことで、親子でも会話がはずむきっかけを作ることができた。

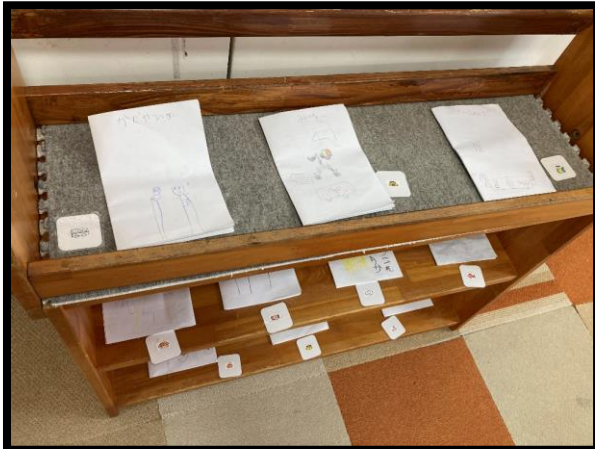


幼児版サブスケール 1 空間と家具 項目5 子どもに関係する展示



改善のポイント

子どもが作った作品を展示するための棚を用意。
送迎時に保護者も子どもも手に取り観える場所に設置。



スケールを実施しての現場保育士の感想や気付き

飾られることを子どもたちが喜び、周りの子どもも影響を受けて自分もやりたいとクラス全体に影響した。
写真の作品は子ども達の「手作り絵本」です。手本を見ながら一生懸命に字を書く子どもたち。その意欲がとても素晴らしく、初めて字を書いた子どもがきっかけで字を憶えたりしていて、素敵だと感じました。

乳児版サブスケール 3 言葉と絵本 項目 9 子どもと話す

改善のポイント

- ・子どもの対応に必死になりすぎて＜褒める＞ことが少なかったと指摘があったので、＜褒める＞ことを意識的にするようになった。意識的に褒めることが増え、子どもも大人も笑顔が増えたように感じる。
- ・言葉かけはたくさんできているが子どもの反応を待つことが少なかったと指摘があったので、応答的働きかけを意識するようになった。
- ・子どもの年齢（発達）に合わせた言葉かけの内容・量って？とみんなで考えるきっかけになった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・観察されるのは緊張するけれど学びがある。
- ・客観的に見てもらうことで、クラスの悩みを共有してもらえたり、アドバイスをもらう機会になった。
- ・保育の中でよくある場面を取り上げ、自分だったらどんな対応をするか・どんな展開をするかなどアイデアを出し合う機会になり、自分のひき出しが増えてよかった。

乳児版サブスケール3 言葉と絵本 項目 10 語彙の拡大

改善のポイント



・子どもの言葉の面に重点を置いて観察する機会を持った。朝の会で今日の予定を確認し生活の見通しが持てるようにしたり、給食の時間や帰りの前の時間に一日の出来事の振り返りを行うようにしたことによって過去と未来についての話も意識できるようになった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

・保育者自身が肯定的な言葉を使うことを意識するようになった。
・保育士同士の振り返りも肯定的な言葉が多くできるようになった。

乳児版サブスケール3 言葉と絵本 項目 10 語彙の拡大

改善のポイント



2歳児クラスでは数字や絵本に書かれている文字に興味を持ち始める時期なので少人数の絵本の読み聞かせからだんだんとクラスでの歌遊び（すうじの歌）に発展していくようにし、個人でも、集団でも楽しみながら言葉を増やすことができるようにした。保育者からの一方的な言葉がけにならないよう、子どもの反応を見ながら行う。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・他の職員の保育を見る機会を持つことができ、参考にしながら自分の保育を振り返る良い機会となった。
- ・保育の場において大切な環境をその時の状況に合わせて整えていくことは常に考えなければならない。「いつもこのようにやっている」で良しとせず、ほかの職員の視点が入ることで、保育のレベルアップが図れると思った。



乳児版 サブスケール 3 言葉と絵本 項目10 語彙の拡大

改善のポイント

- ・ 見える情報や感触などは子どもとの会話の中で伝えていたが、5 - 4 の対比をして差を際立たせたり、7 - 1 のような言葉の意味の説明は意識して関わっていなかった。



スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 食事の時に食材を見ながら、名前や味、食感については話していたが、木に実る事や土の上に生えてくる(中に生える)などの事も意識して伝えるようになった。
- ・ 遊びの中でも今までよりも + α で伝えられる事を子ども達に分かるように意識して話すようになった

乳児版 サブスケール3 言葉と絵本：項目12子どもからのコミュニケーションの促
サブスケール5 相互関係：項目29保育者と子どものやりとり
項目30あたたかな身体的関わり

改善のポイント

大人が子どものトラブルを未然に防ぐことやトラブルが起きているところの対応に追われていた。

大人の関心を子どもの遊びへシフトしていくことが大切。

そのためには、子どもが安心して遊ぶ空間を保障する。

再現・ごっこ遊びの空間見直しと休息コーナーが動線にならないように環境設定することを提案。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・空間・環境設定を変えることで、大人の子どもへの関わり方が変化し、それが子どもの安定した姿につながった。

- ・評価者も観察・分析・考察することで、自分の保育力アップに活かした。

- ・くらすの保育で課題を感じた時に、保育環境評価スケールを活用したいと思った。



乳児版サブスケール 3 言葉と絵本 項目 1 4 絵本に親しむ環境

改善のポイント



フィクション、ノンフィクション等様々な種類の絵本を乳児コーナーに用意。写真絵本のように眺めて楽しめるものや、反復性のあるものなど、子どもの興味関心に合わせて本棚に並べていく。子どもが自分で読みたいものを選び、手に取りやすいよう、絵本は表紙が見えるように本棚に整頓して置いている。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・客観的な視点で保育を観察される機会は、様々な気付きに繋がり、振り返りにもなると感じた。
- ・保育の中で大切にしていることの再確認をすることができた。
- ・乳児の本棚に用意する絵本選びの視点のヒントとなった。

幼児版 サブスケール 3 言葉と文字 項目 1 5 絵本に親しむ環境

改善のポイント



1歳児クラス、絵本コーナーの見直しをしました。棚で左と右に分け、1人～少人数でゆっくりと読めるように配慮しました。更に、右側は、布団やクッションを置いて、ゆったりとゴロゴロしてもいいコーナーにしてみました。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

※スケールで評価する側になってみて、絵本の並べ方や生活場面の切り替わりでの移行時間や待ち時間のところは、自分のクラスの環境や自分の保育の見直しに繋がりました。

※朝の会の様子を見て雰囲気がとてもよかった。

→肯定的な保育の捉え方や伝えあいができました。

乳児版サブスケール 活動3 言葉と絵本 項目 14絵本に親しむ環境

改善のポイント



後期に入り、こどもたちが絵本を自由に見られる環境を作った。破いてしまうことがないような素材の絵本を用意し、発達段階にも合わせられるようにした。またテーブルの近くに環境を整えることで座って読む習慣もついた。棚には、写真を貼ることで片付けもわかりやすいようにした。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

○絵本を出すことでトラブルを警戒し、なかなか進まなかった。職員で絵本の環境について意見を出し合って環境構成することができた。
○こどもたちが絵本を通して、色や果物、食べ物などに関心を持ち、言葉を引き出すきっかけにもなった。
○配置や、個々にルールを伝えるための課題もあるので、今後も検討しながらおこなっていく。

乳児版 サブスケール 4 活動 項目19ごっこあそび

改善のポイント



ままごとでは、見立てながら混ぜる、盛り付けることを楽しむことから巻いたり重ねたりと遊び方が変化している。人形のお世話では、抱っこする、寝かせる、ミルクをあげることから着替え、おむつ替えなどをして楽しむようになる。それぞれの道具は、子どもたちの指先の発達や興味・関心に合わせて入れ替えている。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 職員同士の話し合いがスムーズに行える。
- ・ 見直しの際の判断材料となる。

乳児版 サブスケール4 活動 項目18 積み木

改善のポイント



月齢や発達に合わせて積み木の種類や出し方を変えている。人形や車を出す時期をクラスで話し合い、子どもの状況に合わせて出した。（一回目の観察時期の子どもの発達に合わないものが、二回目の観察時は出ていた。子どもに合わせて遊具を変化させていることがわかる。）

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 外から見てもらい、保育がより良くなるために変えるところ、取り組むことなどを知れた。
- ・ どのような保育を目指しているのか、どのような保育が望ましいかを知ることができた。
- ・ 自分のスキルアップになると感じた。

幼児版 サブスケール4 活動 項目 20 積み木



改善のポイント

樋口先生から積み木の学習を重ねてきた。又、子どもとも社の方からKAPLA積み木の遊びの楽しさも教わった。幼児(特に4,5歳)の子ども達は積み木遊びが大好きになりお話や絵本をたくさん読んでもらうことが日常の保育となっているので、年長さんは森のへなそうるの話からへなそうるを作った。構成・数・形など興味を持って取り組んでいる。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

こころ保育園ではモンテッソーリ、樋口先生のごっこあそびの環境を学んできました。保育協議会の学びの「保育環境評価スケール」について職員たちと勉強しました。

- ・自由あそびの時間に友だち同士話し合って「積み木あそび」が広がっている。
- ・年長さんから小さい子への取り組みになり、異年齢が楽しんでいる。
- ・白い木だけでなく色々な種類の積み木をもっと増やしていきたい。

幼児版サブスケール 4 活動 項目 2 4 日常生活のなかの算数

改善のポイント



時計にシールを貼って、言葉だけでなく視覚からもわかるようにした。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 時計にシールを貼ったことで、時計を見て行動していた。
- ・ 言葉だけでなく、視覚からもわかることで行動に繋がったと思う。
- ・ 印がついていることで、字が読めない子もわかりやすい。

乳児版 サブスケール 4 活動 項目21 数・量・形など

改善のポイント

子どもの目線に入る高さに掲示した。指差しをし、大人に訴える様子や、友だちにこの場所を教えていた。



スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・大人の意識で改善できることは、すぐに取り入れる事が必要だとわかった。改善点などが的確に知ることができた。
- ・掲示物からやりとりしたり、会話を楽しむとを行っていききたい。

幼児版サブスケール4 活動 項目 2 2 自然/科学

改善のポイント

散歩先で見つけた葉っぱや木の実を、図鑑の写真などと一緒に観察ケースに入れて観察して楽しんでいる。棚も子ども達が立って見やすい高さの物を作ってもらい静かなスペースに設置した。内容は季節ごとや子どもの興味に合わせて替えていく。



スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・客観的な視点で保育環境を見たり、色々な意見を出し合って工夫できるようになった。
- ・新しい職員にもどのような保育が望ましいか等を説明しやすくなった。
- ・職員同士で保育についての話や相談がしやすくなった。

職業を知る



改善のポイント

色々な職業に興味を持ち、それぞれの仕事の役割を知ることが出来るように、絵カードを遊具として出した。絵を見ながら仕事を説明したり、即興でお話を作って遊ぶことにも使用している。今後も保護者の仕事を絵にする等して、そのクラスに合ったものを用意出来るようにしていく。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・即興のお話を大人が作って見せると子どもも自ら作るようになり、想像力を膨らませて遊ぶことが出来る。
- ・イメージが具体的に役割を意識した再現遊びでもより細かい所まで再現できるようになってきた。
- ・自分の両親の職業名にも関心を持つようになっていく

幼児版 サブスケール4 活動 項目26 多様性の受容

改善のポイント

- ・絵本コーナーに国旗の本や他国の生活についての本を見えやすい場所に置くようにした。
- ・園に外国籍の子がいることもあり、世界にはいろいろ国や人種、暮らしがあることを知ってもらうきっかけにもなった。
- ・廊下にはあいさつや行事、スポーツなどについて掲示し、世界に興味を持つ機会を作り、保育者が一緒に目を向けることで関心を広げることができた。また、保護者の目につくところに掲示したことで、親子の会話のきっかけにもなった。
- ・季節や世界で行われている行事などに合わせて、記事の貼り出しなど替えていく。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・保育者同士で意見を交換したり、日々の保育を振り返る、保育を見直すきっかけになった。
- ・コミュニケーションスキルの向上にもなり、保育者同士の報連相もしやすくなるのでは…と思った。
- ・評価スケールの項目を読み解くこと自体が勉強になった。また、自分の保育の中で大切にしたいことも再確認できた。
- ・他クラスの保育を“見る”ことはなかなかない事なので、気づいたことを自分の保育にもつなげていきたいと思った。
- ・こどもの目線になって考える大切さを再確認できた。
- ・振り返りを行い、アドバイスや意見をもらったことで、自分ではやっているつもりだったことが足りなかったり、気づけていないことを知ることができてよかった。
- ・子どもたちに世界にはいろいろな国や人種・暮らしがあることを伝えるいいきっかけになった。保護者も目にするところに掲示することにより、親子の会話のきっかけにもなりよかった。



幼児版サブスケール 4 活動 項目26 多様性の受容

改善のポイント

簡単な手話の掲示をすることで聴覚障害を持っている子どもとのコミュニケーションがより意識化された。生活や遊びの中で子どもたちにも手話を日常のものにとらえて掲示を見て真似し、覚えて使う姿が見られる。手話を使ったコミュニケーションが取りやすくなった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・項目があることで、やっていない事にも気づくことが出来た。
- ・チェックが出来ない項目があることで全体的な評価が下がってしまうことには少しモヤっとする気持ちもある。
- ・1回目の評価後に、内容を読んだことで2回目は意識することが出来た。しかし、全部を把握することはできないため担任同士が何をしているのかを意識して互いに知ることも大切で、知ることによって項目の共通理解や、保育の改善につながると感じた。





次年度へ向けて

こんなこともやっていきたい！

- ・ 浸透してきたので継続
 - 乳児・幼児互いの保育をしりながら、よりよい保育を展開
全クラスやってみたい
- ・ 他園を見る機会をつくる
 - 法人内、エリア別など評価スケールを中心とした見学交流会
 - 他の園からの学びを自園にフィードバックしたい
- ・ テーマをしぼって評価する
 - テーマを絞り回数を多くし、評価者を増やす
分析したことを共有し学びをより深める